

《肥料の施用方法》

なす科の野菜(トマト・ピーマン等)との連作は絶対に避け、「元肥は深く、追肥は株から離して施肥」が基本です。

◎元肥 (1㎡当たり)

おいしい菜園 → 100g

他に…トヨクween(石灰) → 150g

吟遊詩人(バーク堆肥) → 4kg

ようりん → 80g …など

◎追肥 (1㎡当たりの1回の量)

おいしい菜園 → 30g

※実がつき出したら約1週間おきに追肥。回を増す毎に畝から徐々に離していき、通路などにも追肥すること。ただし雌しべが雄しべより長く飛び出している**長花柱花**の状態であれば追肥は必要ないので、花を良く観察すること。



この肥料の特徴

粟のような形状で水に溶いて液肥にもでき、土を荒らさない安心して安全な中性化成肥料。速効性だが元肥・追肥両方に使用できる。

なす

▶特徴と栽培のポイント

どんな料理方法にも合い、食卓に欠かせないのがなす。しかし、『なすは水で作られる』と言われるほど水管理が重要な作物で、特に収穫中に水分が不足し乾燥が続くと、色つやが悪く硬い実になってしまいます。畝間にも敷きワラや水やりをし、こまめな追肥を心がけましょう。

▶栽培カレンダー ○定植 ▲定植 ×収穫

3 4 5 6 7 8 9 10



なすは生育適温が30℃前後と高いので早播きは避けます。苗で定植する場合は第一花を取ってから定植しましょう。又、生育期間を通してアブラムシやハダニが発生しやすいので、枝葉を整理(一番花の下1、2枚目のわき芽は伸ばし、それより下のわき芽は全てかき取る3本仕立てに)し、定期的な害虫防除を行って下さい。※秋なす(9~10月採り)は7月上中旬の定植となります。

《人気の品種》

●千両二号(中長)

日本では定番の長卵型品種で、最も定評がある。果色・ツヤが良く、果皮が柔らかい。また果揃いが良く上物が継続して採れる確率が非常に高いので人気がある。新種の『とげなし千両』も、作業面や調理面で扱いやすいと注目を集めている。

●SL紫水(丸水)

夏秋栽培用のとげのない水なす。通常の水なすより丸みを帯びており、柔らかく甘みがある。浅漬け・ぬか漬けに向く。家庭菜園や直売出荷に最適。



●竜馬・梵天丸(小丸)

漬物に欠かせない定番の小ナス、「梵天丸」は仙南地域の物が特に人気があるが、「竜馬」も秋採りに最適な皮が薄く肉質柔らかな極上品。小さいうちに収穫する為、株への負担が少なく多収量で作りやすい。